

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年11月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173100223		
法人名	社会福祉法人じねん		
事業所名	グループホーム愛敬		
所在地	〒078-1651 上川郡愛別町字豊里291-2 (電話) 01658-6-6555		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年10月7日	評価確定日	平成21年11月6日

【情報提供票より】 (平成21年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	13年	4月	1日
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	20人	常勤	12人,	非常勤 8人, 常勤換算 11人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000	円	その他の経費(月額)	21,000~29,000	円	
敷金	有( )	円		無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( )	円	有りの場合償却の有無		有 / 無	
食材料費	朝食	400	円	昼食	400	円
	夕食	400	円	おやつ		円
	または1日当たり					円

### (4) 利用者の概要 (10月7日現在)

利用者人数	16名	男性	4名	女性	12名	
要介護1	2名	要介護2	5名			
要介護3	8名	要介護4	1名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	85.1歳	最低	73歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	愛別町立診療所・当麻町立診療所・愛別歯科医院・他
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、山や田に囲まれた豊かな自然環境に恵まれている。事業所内はゆったりと広く、明るい自然の光が差し込み、手作りの品々を飾り、家庭的な雰囲気となっている。利用者は事業所周围の散策やドライブ、畑で野菜作りを楽しむなど、思い思いの生活を楽しんでいる。家族や地域との交流が盛んで、行政との協力関係も良く地域に根ざした事業所運営を行っている。「ゆっくり、一緒に、楽しく暮らす」という施設の理念が、理事長や施設長の思いとして、全スタッフに浸透している。職員の離職もなく、より良いケアを目指したチームケアを実践している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の指摘事項である「運営会議を活かした取り組み」と「栄養摂取や水分確保の支援」については、それぞれ改善している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義や目的を職員全員が理解しており、今回も全職員で自己評価に取り組んでいる。評価作業の再確認することもあり、今後のケアに活かす大切な取り組みとなっている。さらに、外部評価後の改善検討も予定している。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は利用者、家族、役場職員、民生委員を構成員として、2ヶ月に1度開催している。会議では活動報告や制度説明、利用状況の報告、意見交換を行い、サービスの質の向上や事業所の運営に活かしている。行政との協力関係が築かれており、行事開催時の協力や緊急時の対応など体制が整えられている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 四半期ごとに発行している広報誌「愛敬だより」には多彩な写真の掲載するなど暮らしぶりを記載しており、家族からも好評を得ている。面会者も多く、職員は家族の来訪時に日常生活の様子を詳しく伝えている。日ごろから家族との交流を大切にし、家族が気軽に意見や要望等を伝えられるような雰囲気づくりに努めている。家族から出された意見などについては直ちに検討し、希望に添えるようにしている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町の年間行事として、ホーム納涼祭を行っている。クリスマス会を含めて地域の多数の人の参加があり、町民も楽しみのひとつとなっている。職員は利用者と一緒に近くを散策する時などは、積極的に声かけするなど、顔なじみになれるように心がけている。また、近隣の小学校の運動会や学芸会にも招待されることがあり、利用者の楽しみになっている。町内婦人部のボランティア活動なども受け入れており、交流が盛んである。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に関わる大切さを考慮した理念となっている。理念、基本方針、してはいけない20ヶ条を定めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の要所に理念を掲示しており、毎朝唱和も行っている。全体会議や各ユニット会議で施設長、ホーム長が理念の内容について繰り返し説明している。職員は、日々理念を意識し、実践に励んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム納涼祭が、町の年間行事として位置付けされている。地域の多数の人の参加があり、町民の楽しみのひとつとなっている。職員は利用者と一緒に近くを散策する時など積極的に声かけするなど、顔なじみになれるように心がけている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を職員全員が理解しており、今回も全職員で自己評価に取り組んでいる。評価の中でこれまでのケアを再確認することもあり、今後のケアに活かす大切な取り組みとなっている。外部評価後の改善検討も予定している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者、家族、役場職員、民生委員を構成員とし、2ヶ月に1度定期的に開催している。会議では活動報告や制度説明、利用状況の報告、意見交換も行い、サービスの質の向上や事業所の運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政との協力関係を築いている。行事開催時の協力や、緊急時の対応も協力体制が整えられている。制度相談や利用相談、運営推進会議への参加協力など、町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	四半期ごとに発行している広報誌「愛敬だより」には多彩な写真を掲載するなど、暮らしぶりを記載し、家族からも好評を得ている。面会者も多くあり、職員は家族の来訪時には、利用者の日常の様子を詳しく伝えている。毎月請求書や金銭出納帳を手渡し、受診の様子等も報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日ごろから家族と交流を図り、家族が気軽に意見や要望等を伝えられるような雰囲気づくりに努めている。出された内容については直ちに検討し、希望に添えるようにしている。また、運営推進会議の参加の促進や家族会活動の支援など、活動を積極的に応援している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少ない。ユニット間での職員異動は行っているが、日々の生活上で交流があることから、なじみの関係を築いており、利用者のダメージをできるだけ防ぐ配慮がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は人材育成の重要性を認識しており、研修計画を作成し、外部研修なども、機会あるごとに参加している。外部研修には職員一人ひとりの知識や経験に応じて交替で参加し、参加後も会議等で報告をし、共有化を図っている。また、グループホーム協議会に加入しており、情報交換も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当麻町・中富良野町にある同一法人のグループホームとは、利用者も職員も常に交流の機会を持っており、情報交換も行っている。また、グループホーム協議会に加入しており、親交を深めながらネットワーク作りに努め、サービスの質の向上に活かしている。		
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用にあたっては、事前に利用者や家族が事業所を訪問見学し、面談などを通して利用者や家族の意思を確認した上で、サービス利用開始につなげ、利用者が安心して事業所の雰囲気になじめるよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経験や得意なことを見極め、活躍できる場面づくりを支援している。また、利用者から生活の知恵や料理の味付けを学ぶなど、共に支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用で、利用者の生活歴等の情報や心身の状況を継続して収集している。サービス利用開始後も担当者は家族の意見や、日々の暮らしの中から本人の希望や意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、毎月行うアセスメントで話し合い、ケア内容に反映させて作成している。記録は介護計画の目標に基づき、ケア内容と連動して記載する書式になっており、記録から評価の達成状況についての把握しやすくなっている。職員は、今後の目標課題についての提案も積極的に行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1度アセスメントを行い、基本的には3ヶ月ごとに見直している。全体会議や各ユニット会議において目標の状況や日常生活記録から評価し、見直しの検討をしている。新たな計画書は家族に直接説明し、確認後に同意のサインをもらっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の送迎や理美容院への付き添いなど、利用者の希望に応じた柔軟な支援をしている。また、必要物品の買出しや帰省、農林公園での作業送迎など、利用者の要望に応じた多機能性を活かした支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員は利用者が希望する医療機関への通院に同行し、状態の報告、聞き取りを行い、家族に報告している。また、医療機関による月2回の訪問診療を受けることができるなど、適切な医療支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた指針については書類に詳しく記載しており、家族の同意を得ている。また、関係医療機関と連携がとれているが、今後予想される重度化、終末期への方針の対応が検討課題となっている。	○	看取りに際してのケアのあり方は、事業所を中心にできるだけ早い時期から本人、家族、医師、スタッフ等で対応の確認が必要である。現在対象者もおおり、個別支援の具体的内容について書式にまとめ、職員間での共有方法や対策など早い時期の取り組みが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りや自尊心を損ねることがないように声かけや対応を心がけている。また、写真の掲載や名前の表示、個人情報の管理についてもプライバシー保護の徹底に努めている。書類の取り扱いにも、配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、それを利用者には強制することなく、一人ひとりのペースを尊重し、その人らしい生活となるよう支援している。職員は、利用者とは過ごす時間をなるべく多く保ち、コミュニケーションを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的なメニューはあるが、地域からの頂き物や収穫野菜を利用して、毎日利用者の好みや希望を採り入れながら献立を決めている。食材の買い出し、調理、後片付けなどを職員と一緒にいき、食事中的会話も含め食事が楽しみの一つとなる支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回は必ず入浴できるよう曜日を定め、支援している。生活の中で入浴が楽しみの一つとなるよう声かけし、入浴を拒否する傾向にある利用者にも対応している。畑作業後も、必要に応じてシャワー浴などを行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、掃除、漬物作り、買い物、菜園づくり、絵画やぬり絵、書道など、生活の中で趣味や役割を持てるよう支援している。機能低下が見られる利用者には、残された力を引き出せるような試みにも力を入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、観光地へのドライブなどで憩いの時間作り、農林公園での畑づくりや花壇作りやなど、利用者の希望に応じた外出支援を行っている。また、健康管理にも配慮した対応をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることの弊害を十分理解しており、日中は施錠していない。利用者が外出する様子が見られる時はさりげなく声かけし、利用者の安全面に配慮しながら一緒に出かけるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力で避難訓練を行っている。特に夜間対応に重点を置き、職員の意識を高めている。職員は救急救命講習等も受講しており、事故防止に努めている。また、運営推進会議や行政を通して緊急時に地域からも協力が得られるような関係作りもできている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事、水分摂取量を個別に記録しており、職員は情報を共有化し体調管理を行っている。また、病状による食事制限や管理にも対応している。管理栄養士に食事メニューの点検依頼を行い、年間を通じて確認している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は明るく開放的でソファや椅子を多く設置し、利用者は思い思いの場所で過ごせる空間となっている。また、光、音、匂い、温度、湿度等も適宜調節しており、一日を過ごす憩いの場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は利用者にとって暮らしやすいように家具やベットを置き、家族の写真などを飾り、以前の生活とできるだけ変わることがなく、精神的負担を軽減できるよう配慮している。		

※  は、重点項目。